

「大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針(案)」の市民意見公募において寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方について

- 1. 受付期間：平成30年2月9日（金）～3月9日（金）
- 2. 受付人数 455人
- 3. 意見総数 34件

資料2

(1) 幼小連携について・・・3件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	市立幼稚園の良さは小学校との幼小連携がしっかりなされていることです。幼稚園児と小学生との交流活動と一緒に歩いての登園、園児の学校行事への参加、幼稚園教諭と学校教職員との情報共有により、小学校へのスムーズな接続ができ、小一プロブレム解消に効果を発揮してきました。また、これらは保護者の安心にも繋がっています。 統廃合によって市立幼稚園がなくなれば、円滑な接続ができなくなる恐れがあります。 ※小一プロブレム…小学校に入学したばかりの1年生が、(1)集団行動がとれない(2)授業中に座ってられない(3)先生の話听不懂、など学校生活になじめない状態が続くこと。	幼稚園や保育所等と小学校との円滑な接続は、子どもの学びの連続性を確保するとともに、小一プロブレム解消にとって重要であり、市立幼稚園は、小学校と隣接・近接関係にあることや交流事業等を通して連携を深めてきました。 こうした幼小連携は、市立幼稚園だけでなく、私立の幼稚園や保育所、認定こども園等とも一層充実しなければならないと考えており、本市の子どものための施設に通っていても、校区の小学校と円滑な接続ができるよう、職員相互の研修会の開催や、園児と児童が交流する体験活動の機会を設けるなど幼小連携の強化が求められています。 そのため、在り方の方針（案）では、市立幼稚園は市立の保育所との一体化により、幼児教育と保育を一体的に提供する拠点施設として、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の在り方を実践・研究し、公開保育や情報交換会等を通じてその成果や課題を情報提供し、共有を進めることとしています。また、私立の幼稚園等が小学校との連携や接続を円滑に行えるよう、カリキュラムの作成や実施に向けた支援などの役割を担うことで、小学校と地域の幼稚園や保育所等との円滑な接続を図っていくこととしています。
2	小学校との併設園という「幼小連携」の良さを活かし、市民に強くアピールしていくことが必要だと思います。	
3	遠くの市立保育所や市立幼稚園よりも近隣の私立保育所や私立幼稚園との連携を考えるべきだと思います。地区公民館区域ではなく、小学校区内での連携など、市立、私立を超えた柔軟な連携をお願いします。	

(2) 市立幼稚園の園児を増やす取組について・・・3件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	保育料は応能負担となったのに、多年制保育や一時預かりが導入されていないことから、市立幼稚園の園児が減少しました。多年制保育や条件を整備した上で一時預かりの拡充といった、時代のニーズにあった教育環境を整備するなど、園児数を増やす施策を実施してください。	子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化し、保護者の保育ニーズが多様化する中、本市では私立の幼稚園・保育所・認定こども園など、様々な形態の幼児教育・保育施設の整備が進んでいます。 こうした中で、市立の幼稚園・保育所を市立の認定こども園として設置することで、私立施設と連携・協働を図るとともに、国の定める幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づくスタンダードで、かつ、先進的な幼児教育・保育の実践・研究に一層取り組み、その成果や課題を私立の幼稚園や保育所などに情報提供し、共有を図るなど、地域における拠点施設として、本市全体の幼児教育・保育の質の向上に努めていくこととしています。 この市立認定こども園を設置した際には、0歳児から5歳児の学びの連続性を確保するとともに、3歳児からの幼児教育と、一時預かり事業を実施することとしています。 なお、認定こども園を設置するまでの間は、市立幼稚園では望ましい集団活動ができる園児数を確保するために整理統合を行う中で、多年制保育や一時預かり事業の拡充について検討していくこととしています。
2	給与や職員数などで労働状況を改善し保育所や幼稚園での労働環境を改善することは、保育士の質の向上につながり、児童の受け入れる人数も増やせるのではないかと思います。	
3	市立幼稚園の整理統合の前に、園児数がなぜここまで減少したのか総括すべきではないでしょうか。	

(3) 幼児教育について・・・5件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	園児に対して丁寧に、その子に合った指導や就学前に必要な生活習慣を身につけさせてくれる市立幼稚園で、幼児教育を受けさせたいと考えている保護者は多いと思います。市はその希望に応えるためにも、しっかりした幼児教育を確立し実施すべきだと思います。	乳幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、すべての子どもたちがその発達に応じた乳幼児期の教育・保育を受けることで、心身ともに健康で個性豊かな育ちを身に付け、「生きる力」の基礎を培うことが大切です。 市立幼稚園と市立保育所の一体化により設置する市立の認定こども園では、国が定める幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づくスタンダードな幼児教育・保育を一体的に行うとともに、引き続き、本市における幼児教育を取り巻く諸課題やニーズに対する先進的な実践・研究や幼小連携の推進、特別な配慮を必要とする子どもの教育・保育の充実などに取り組むことで、質の高い幼児教育・保育を提供します。 また、市立の認定こども園は、総合的な幼児教育・保育の実践・研究の成果や課題を私立の幼稚園や保育所等に情報提供し、共有を図るとともに、私立の幼稚園や保育所等と一層連携・協調しながら、地域における子ども・子育て支援の拡充等を積極的に行うことで、本市全体の幼児教育・保育の質の向上を図ってまいります。
2	特別な支援が必要な子どもや発達が遅い子どもにとって、経営の事を考えずに、十分な支援ができる市立幼稚園は必要だと思います。	市立幼稚園と市立保育所の一体化により設置する市立の認定こども園では、地域における幼児教育・保育の拠点施設として、発達障がいや知的障がい等の特別な支援を要する子どもや医療的ケアの必要な子どもへの適切な指導や支援の充実、また、海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもが集団生活に適應できるよう、計画的な指導内容や指導方法の工夫などに一層取り組むこととしています。 また、そうした支援方法・事例等を私立の幼児教育・保育施設に情報提供し、共有することで、特別な配慮を必要とする子どもへの教育・保育の充実を図ってまいります。
3	小学校に通う前に幼稚園で慣れさせようという考えを持っている方もいますし、私立には行かせず公立に行ける年齢まで家で育てるという考えの方もいます。色々な人の考えを大事にし、保育内容等で保護者が選択できる状況を市として整える方が良いと思います。	市立幼稚園と市立保育所の両方の機能を併せ持つ市立認定こども園を整備することで、0歳児から5歳児まで連続した幼児教育・保育を一体的に提供し、保護者の就労の状況等にかかわらず利用できるよう、引き続き公立施設に対する保護者のニーズに応えてまいります。 また、公立施設が担う役割を果たすことで、保護者が公立・私立にかかわらず、安心して幼児教育・保育施設を選択できるよう、本市全体の幼児教育・保育の質を高めてまいります。 なお、私立の幼児教育・保育施設等では、絶え間ない経営努力と特色ある教育・保育理念に基づき、市民に多様な幼児教育・保育の機会を提供しており、地域の子育て支援や待機児童解消等について大きな役割を果たしています。 今後も公立施設と私立施設が幼児教育・保育の実践・研究内容等に関する情報を共有しながら、本市全体の幼児教育・保育の質を高めてまいります。
4	私立保育施設等の場合、経営も考えなければならず、子どもへの保育や幼児教育に影響がないか。	
5	私立幼稚園より保育料を下げ、職員を増やして「安くて良い」と言われるようにしてほしい。適正な保育料で充実した保育が受けられるようにしてほしいです	国が平成27年度から始めた子ども・子育て支援新制度において、市立幼稚園も含め対象となる全ての幼児教育・保育施設における保育料は、保護者の所得に応じた応能負担となっています。本市においても、国の方針に従い、保護者の所得に応じた公平な保育料となるよう応能負担を導入しております。

(4) 認定こども園化について・・・8件

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
1	保育所と幼稚園が一本化しなければならないのかわかりません。幼稚園と保育所では、子どもの見方や預ける目的、働く先生の考えも違い、親も戸惑うと思います。1つのイベントでも幼稚園側、保育所側の親では考えが異なり、最初は良くて少しずつ歪みが出てきてトラブルになったり相容れない状態が起ると思います。	<p>少子化や核家族化の進行により子育てを取り巻く環境が大きく変化し、保護者の保育ニーズが多様化する中、待機児童への対応や質の高い幼児教育・保育の提供、子育て中の保護者に対する支援などが求められています。</p> <p>認定こども園は、幼稚園と保育所の機能を併せ持ち、保護者の就労の状況などにかかわらず利用することができる施設であることから、園児にとっては就学前まで、なれ親しんだ環境の下で、集団活動を送ることができるという大きな効果があると考えております。また、0歳児から5歳児までの連続した幼児教育・保育を一体的に提供できることから、地域における幼児教育・保育の拠点施設として、「幼児教育・保育の質の向上と人材育成」、「特別な配慮を必要とする子どもの教育・保育の充実」、「幼保小連携の充実」、「地域の子育て支援の拡充」、「幼児教育・保育の機会均等の確保」など、公的施設が担う役割を果たすうえにおいて最も効果的な形態であると考えています。</p> <p>今後は、市立の幼稚園と保育所の一元化を図り、将来的に市立の認定こども園として整備する中で、総合的な幼児教育・保育の実践・研究に取り組むとともに、その成果や課題を私立の幼児教育・保育施設に提供し、共有を図ることで、本市の幼児教育・保育の質の向上を図ってまいります。</p> <p>なお、認定こども園は、幼稚園の機能と保育所の機能を併せ持ち、小学校就学前の子どもの教育・保育、子育て支援を一体的に提供する施設であり、幼稚園型や保育所型、幼保連携型などの種類がありますが、公的な認定こども園の設置に当たっては、「学校」および「児童福祉施設」両方の明確な法的位置付けを有する施設である、幼保連携型認定こども園を考えています。</p>
2	これまで市立幼稚園が教育機関として果たしてきた役割や小学校併設の良さを考えると、小学校併設のまま、幼稚園型認定こども園とすることも検討すべきではないですか。	
3	幼児教育は、「小1ギャップ」を解消し、小学校へのスムーズな移行ができ、かつ小学校での教育の土台をはぐくむものだと考えています。幼保連携型認定こども園が、この教育水準をクリアできるか、また、この水準をキープできるのか疑問に感じます。	
4	「認定こども園」はとても良いシステムでどんどん増やすべきですが、「安全」や「質」を確保するために、受け入れ人数が減っては本末転倒ではないかと思えます。	
5	大分市は、幼保連携型認定こども園を目指していることが分かりましたが、今ある市立幼稚園の活用を含め幼保小の連携まで見通した認定こども園であってほしいと思います。	
6	将来構想の中に書かれている幼保連携型こども園については具体的なビジョンが見えにくいです。それぞれの年齢の発達段階に応じた保育を行うためには、せめて0〜3才と3才以上で施設を分け、年代に合った成長を保障すべきではないでしょうか。	
7	どういう経緯で、統合になったのか市民はほとんど知りません。理由を教えてください。そして、認定こども園化が幼児(子ども)や保護者のためになるのか、どういう点が利点になるのか、具体的に教えていただきたい。	
8	確実に次世代を安心して育てられる環境づくりが私たちの世代の務めだと思います。	

(5) 地域における役割について・・・2件

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
1	市立幼稚園は、事業を通して地域住民と交流を行い、地域活性化にも貢献してきました。地域から市立幼稚園が無くなることは地域コミュニティの崩壊にもつながる恐れがあります。	<p>本市では、これまでも市立幼稚園をはじめ、私立の幼稚園や保育所等において、地域との交流や地域における子育て支援に積極的に取り組み、幼児教育・保育の充実を図るとともに、地域コミュニティの維持増進に貢献してきました。</p> <p>今後、市立幼稚園と市立保育所を一体化して設置する市立の認定こども園においては、地域における子育て支援の拠点施設として、地域の子育て家庭に遊びの場や保護者の交流の場を提供するとともに、幼稚園教諭や保育士の専門性をいかした子育て相談、地域の子育てサロン等への保育技術の提供など、地域における幼児教育と保育を一体的に提供する教育・保育のセンター的機能を一層強化することとしております。</p> <p>また、市立の認定こども園が、私立の幼児教育・保育施設と地域で子育て支援に取り組んでいる方々や関係機関とをつなぐコーディネーターとしての役割を果たすことにより、地域コミュニティのさらなる活性化が図られるものと考えています。</p>
2	市立幼稚園は、地域の未就学児を抱える世帯の相談に乗るなど子育て支援に取り組むなど教育のセンター的機能を担ってきました。その機能が失われるのではないのでしょうか。	

(6) 市立幼稚園の休園・統廃合について・・・6件

番号	ご意見(要旨)	市の考え方
1	一区域に一つのこども園では、市立幼稚園を希望して保育、幼児教育を受けようとする人の機会を奪う事になります。市立幼稚園を希望する人が一人でもいれば、市の責任で市立幼稚園を存続させて受け入れすべきです。	<p>少子化や核家族化の進行により、家庭や地域において、幼児同士が関わる機会が減少している現状を踏まえると、子どもたちにとって望ましい集団活動ができる環境を確保することが重要と考えます。集団による遊びの楽しさを味わうことや、同年代の友達との関わりの中で折り合いをつけるといった体験を通じて主体性や社会的態度を身につけていくことが大切です。</p> <p>また、一定規模の集団の中で互いに切磋琢磨するなど、友達と関わり様々な体験を重ねる中で育まれる協同性や規範意識、向上心の芽生えなど、生きる力の基礎を培うことの意義は大きいと考えています。</p> <p>こうしたことから、市立の幼稚園と保育所の一体化を図り、市立幼稚園と市立保育所の両方の機能を併せ持ち、0歳児から5歳児まで連続した幼児教育・保育を一体的に提供する市立の認定こども園として整備することとしています。また、認定こども園は保護者の就労の状況等にかかわらず利用でき、園児にとっては就学前まで、なれ親しんだ環境の下で、集団活動を送ることができるという大きな効果があると考えております。</p> <p>さらに、総合的な幼児教育・保育の実践・研究に取り組むとともに、その成果や課題を私立の幼児教育・保育施設に情報提供し、共有を図るなど、地域における幼児教育・保育の拠点施設としての役割を果たしていくことで、保護者が公立、私立にかかわらず安心して幼児教育・保育施設を選択できるよう本市全体の幼児教育・保育の質の向上を図っていくこととしています。</p> <p>こうした中で、一部の市立幼稚園においては、子どもにとって望ましい集団活動の下での保育が行いにくい状況も見られていることから、望ましい集団活動ができる規模を確保するため、一定の基準のもとで整理統合を行うこととしています。</p> <p>園児募集したものの入園希望者が少なく、休園となる場合は、保護者からの相談をお受けする場を設け、意向を十分に伺ったうえで、責任を持って他の幼児教育・保育施設へ入園ができるよう対応してまいります。</p> <p>なお、通園保障などの費用負担につきましては、同一地域内で他の幼児教育・保育施設へ通園している方との均衡を考慮する必要があると考えております。</p>
2	統廃合基準が厳しいです。数字の上だけの統廃合は反対です。数年間、入園児数が少なかっただけで幼稚園がなくなってしまうのは、その地域に住んでいる人に不安を感じると思えます。幼稚園に通うつもりの子どもの保護者からも困惑の声を聞きます。	
3	待機児童も数多くいます。幼児教育無償化の制度設計も進んでいます。幼稚園の休園、統廃合は流れに逆行しているのではないですか。子どもを安心して預けられる幼稚園や保育所を十分に確保していくべきと考えます。	
4	市立幼稚園、保育所が減ってしまうことは教育の格差を生むのではないのでしょうか。多様化する家庭や地域環境に対応するのが難しくなるのではないかと思います。	
5	市立幼稚園の園数が多少減ることは仕方ないにしても、市立幼稚園を全くなくしてしまうとする動きには反対です。公立幼稚園や公立保育所には、それぞれ良さがあり担う役割も違うため、今回の市の方針は安易な考えに思えてなりません。	
6	休園の基準が示されていますが、出願したものの申し込みが少ないので休園になるケースが生じるのではないのでしょうか。その場合、市が責任を持って代わりの施設に入れるようすべきだと思います。また、代わりの保育施設等が遠くなり費用負担が発生する場合は、大分市が負担すべきです。	

(7) 通園について・・・3件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	市立幼稚園は、小学校に近く、誰でも通える地域の幼稚園であって良いのではないのでしょうか。	現在、市立幼稚園は、市内の54小学校区のうち、28校区に設置されています。この他、市立保育所や私立の幼児教育・保育施設は154施設、合わせて182施設となっています。
2	小学校入学までの1年間を徒歩通学などで通いながら、地域の中で見守られながら地元の幼稚園で過ごせることは、意義が大きいと思います。	このような中、保護者が、幼児教育・保育施設を利用する際は、利用したい時間、各施設の教育・保育内容等の特色、地域ごとの施設の設置状況などにより、各家庭のニーズに合った施設を選択しており、通園についても、選択した施設に応じ、施設の専用バスや自家用車での送迎、徒歩などにより行われています。
3	子どもたちが、今までより遠い幼稚園に通わなければならないのではないですか。同じ校区の友達もできず、親の負担も増すので、通わせることができなくなるのではないかと。	また、市内の全ての小学校区において、幼保小連携推進協議会を設け、小学校と各幼児教育・保育施設が学校行事や保育活動を通じた交流を行い、スムーズに小学校に入学できるよう取り組みを進めており、保護者が公立・私立にかかわらず、校区内の幼児教育・保育施設を選択できる環境を整えることが重要と考えています。なお、今後は、市立の幼児教育・保育施設を市内にバランスよく配置し、幼保小連携推進のコーディネーターの役割を担うことを目指しています。
		※幼保小連携推進協議会…就学前の幼児が、スムーズに小学校生活に適應できるよう、小学校と校区の幼児教育・保育施設の教職員が情報交換や協議を行う場です。また、それを基に、子ども同士の交流活動や教職員の合同研修に取り組んでいます。さらに、就学間近の期間におけるアプローチカリキュラムや小学校入学初期におけるスタートカリキュラムを作成することにより、幼児教育・保育施設から小学校への円滑な接続を図ります。

(8) 望ましい集団規模ができる規模・・・1件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	幼稚園の1学級15人～30人のことですが、特別支援を要するお子さんが多い昨今、きめ細かく安心できる保育のためにもっと少なくてもよいと思います。思い切って5人～15人でもよいと思います。	少子化や核家族化の進行により、家庭や地域において、幼児同士が関わる機会が減少している現状を踏まえると、子どもたちにとって望ましい集団活動ができる環境を確保することが重要です。
		幼児期においては、集団による遊びの楽しさを味わったり、同年代の友達との関わりの中で折り合いをつけるといった体験を通じて主体性や社会的態度を身につけていくことが大切です。
		また、一定規模の集団の中で互いに切磋琢磨するなど、友達と関わり様々な体験を重ねる中で育まれる協働性や規範意識、向上心の芽生えなど、生きる力の基礎を培うことの意義は大きいと考えています。
		こうしたことから、幼稚園教育における望ましい集団規模について、国の設置基準である1学級35人以下を踏まえるとともに、類似都市の状況、集団教育の教育的効果等を考慮し、1学級あたりの適正規模として15人～30人が望ましいと考えています。
		なお、特別な配慮を必要とする子どもについては、今後とも必要に応じて教職員の加配など、支援の充実に努めてまいります。

(9) その他・・・3件

番号	ご意見（要旨）	市の考え方
1	幼稚園教諭や保護者の意見が吸い上げられていないように感じます。幅広い意見を聞いていただきたいです。	大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針の検討にあたっては、「大分市幼児教育の振興並びに市立幼稚園及び保育所の在り方検討委員会」に小学校校長や市立幼稚園の園長、市立幼稚園に通う児童の保護者の代表者などに参画をいただいています。
		このほか、学識経験者や私立幼稚園・保育所・認定こども園の経営者や保護者の代表者、市立保育所の所長や保護者の代表者、自治委員や市民の代表者など、幅広い方々に参画をいただく中で様々なご意見をいただきながら検討が進められています。
		また、検討過程においては、大分市立小学校校長会や市立幼稚園園長会などで検討経過を報告して意見交換を行っており、意見等によっては必要に応じて在り方検討委員会において議論をいただいているところです。
2	こども園のあり方や統廃合後の幼稚園教諭の処遇が不透明なまま進められていることが不安です。統廃合された場合、幼稚園教諭はどうなるのでしょうか。	今回の大分市立幼稚園及び保育所の在り方の方針は、市立幼稚園と保育所の認定こども園化により、園児に教育と保育を一体的に提供するとともに、地域における幼児教育・保育の拠点施設として本市全体の幼児教育・保育の質の向上に努めていくことを目指したものであり、単に市立幼稚園・保育所の整理・統合を目的としたものではありません。
		現在市立幼稚園に勤務する幼稚園教諭については、統廃合後の幼稚園や認定こども園において引き続き勤務することとなります。
3	小学校の育成クラブに幼児クラスを作ってはどうか。	児童育成クラブは、保護者の就労等により昼間留守家庭となる小学生に対して、放課後及び長期休業期間における生活の場を提供する施設です。近年、保護者の就労形態の変化とともに利用児童が増加していること、また平成27年度から利用対象が小学6年生まで拡充されたことにより、多くの校区においてクラブ施設の拡充や児童に対応する職員の確保が大きな課題となっています。
		また、クラブ室の施設や職員配置の面においても、利用対象が小学生であることを前提とした運営体制であるため、現状としては、児童育成クラブでの幼稚園児の受入は困難な状況となっております。